

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年<大阪府 (公立) 実施校数・児童数 984校 71,626人>
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年<大阪府 (公立) 実施校数・生徒数 470校 67,027人>

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査
 - ・小学校等【国語、算数】
 - ・中学校等【国語、数学】
- ※英語 (中学校等)理科 (小学校) は3年に一度程度の実施のため実施せず
- ② 質問紙調査 (児童生徒に対する調査、学校に対する調査)
- (4) 実施日 令和3年5月27日(木)

【今年度調査の特徴】

※令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症にかかる休校等の影響を考慮し、実施しないこととなったため、本年度は2年ぶりの実施
 ※可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で参加できるよう、例年より約1ヵ月遅れの日程で実施
 ※新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度より従来のA問題(知識・技能等)とB問題(活用等)という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更

学力調査結果

平均正答率 (%)

小学校

	大阪府	全国	差	対全国比
国語	63.2	64.7	-1.5	0.977
算数	69.7	70.2	-0.5	0.993

中学校

	大阪府	全国	差	対全国比
国語	62.0	64.6	-2.6	0.960
数学	55.5	57.2	-1.7	0.970

無解答率 (%)

小学校

	大阪府	全国	差
国語	4.7	4.3	0.4
算数	2.5	2.6	-0.1

中学校

	大阪府	全国	差
国語	5.3	4.4	0.9
数学	12.8	11.2	1.6

各教科の状況

○ 小学校国語

平均正答率は、63.2%で全国を1.5ポイント下回った。(対全国比 0.977)
 「話すこと・聞くこと」は、概ねできている。特に、目的や意図に応じ、資料を使って話すことについて、相当数の児童ができています。一方、「読むこと」には課題が見られ、特に、目的に応じ文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けることや目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約することについて、できていない児童が多い。

	領域等	大阪の平均正答率 (%)
小学校国語	話すこと・聞くこと	76.7
	書くこと	57.3
	読むこと	45.2
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	67.4

○ 小学校算数

平均正答率は、69.7%で全国を0.5ポイント下回った。(対全国比 0.993)
 「データの活用」は、概ねできている。特に棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ることは、相当数の児童ができています。一方、「図形」に課題が見られ、特に、三角形の面積の求め方について理解できていない児童が多い。

	領域等	大阪の平均正答率 (%)
小学校算数	数と計算	62.7
	図形	56.7
	測定	74.5
	変化と関係	75.7
	データの活用	75.7

○ 中学校国語

平均正答率は、62.0%で全国を2.6ポイント下回った。(対全国比 0.960)
 「話すこと・聞くこと」は、概ねできている。特に、話合いの話題や方向を捉えたり、質問の意図を捉えたりすることについて、相当数の生徒ができています。一方、「読むこと」には課題が見られ、特に、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことについて、できていない生徒が多く、無解答率も高い。

	領域等	大阪の平均正答率 (%)
中学校国語	話すこと・聞くこと	76.2
	書くこと	54.1
	読むこと	45.4
	言葉等の知識や理解	73.8

○ 中学校数学

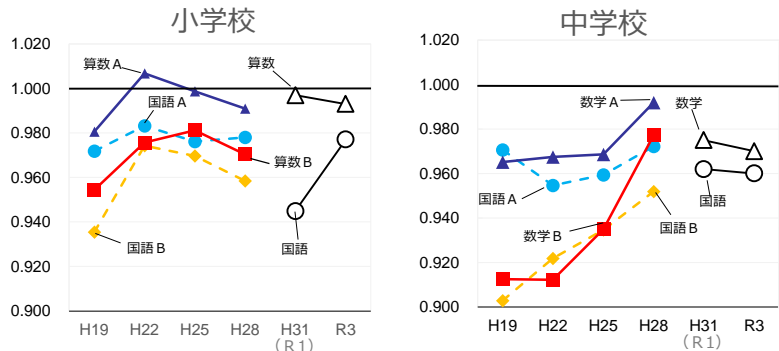
平均正答率は、55.5%で全国を1.7ポイント下回った。(対全国比 0.970)
 「数と式」は、概ねできている。特に整式の加法と減法の計算については、概ねできている。一方、「図形」では特に、ある条件下でいつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができない生徒が多く、無解答率も高く、課題である。また、「資料の活用」にも課題が見られ、特にデータの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについて、できていない生徒が多く、無解答率も高い。

	領域等	大阪の平均正答率 (%)
中学校数学	数と式	63.6
	図形	49.9
	関数	54.7
	資料の活用	51.7

【参考】対全国比の経年比較

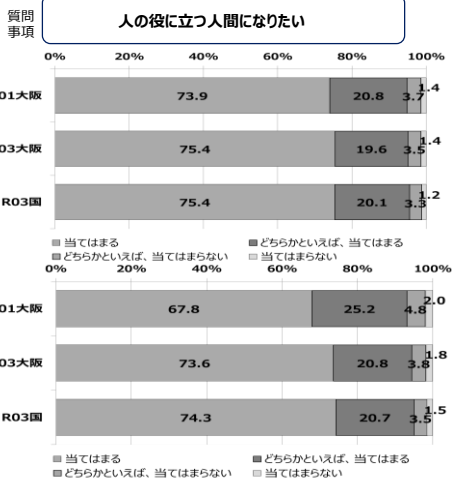
対全国比 = 府平均正答率 ÷ 全国平均正答率

全国の平均正答率を1.000としたときの、大阪府(政令市を含む)の各教科の平均正答率の推移 (平成30年までは各教科A・Bの2区分)



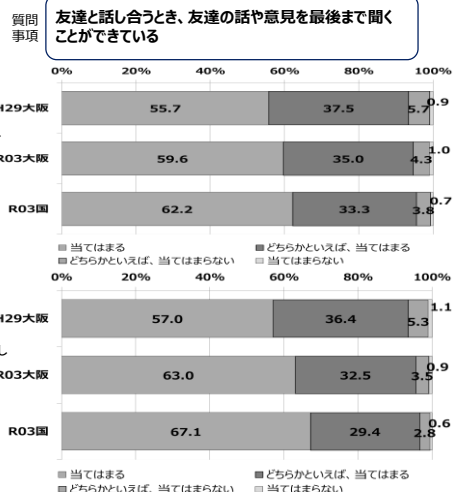
児童生徒質問紙

○人の役に立ちたいと思っている



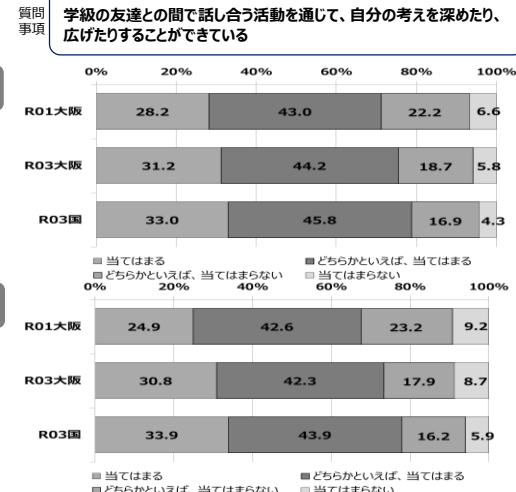
人の役に立つ人間になりたいと肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

○友達の話を最後まで聞く



友達の話を最後まで聞くことができると肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

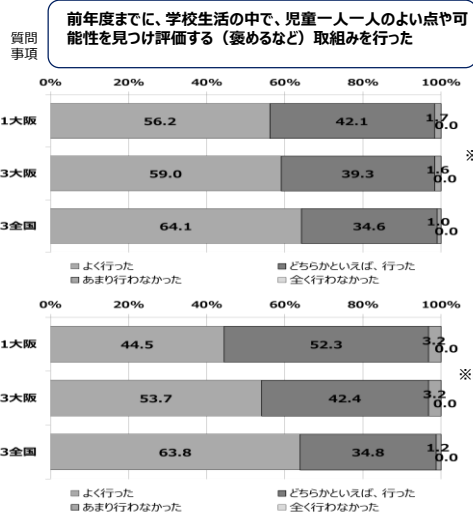
○自分の考えを深めたり、広げたりしている



話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるという肯定的に回答した児童生徒の割合が増加しているが、さらなる取組みが必要。

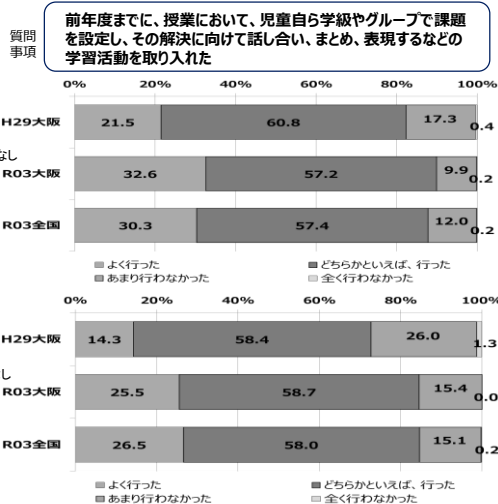
学校質問紙

○よい点や可能性を見つけ評価する取組み



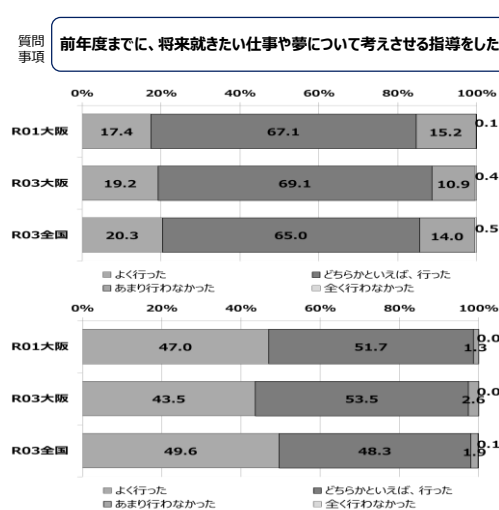
学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組みを行ったと回答した学校の割合が小中学校で増加している。

○話し合い、まとめ、表現する活動



授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた割合が小中学校で増加している。

○将来について考えさせる指導



小学校では将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったという回答の割合が増加したが、中学校においては減少しており、課題。